

# 再生事例に見る従前従後の空間比較模型 (ドイツ・ライネフェルデ地区 1/2000)

関西大学  
戦略的研究基盤  
団地再編  
リーフレット  
Re-DANCHI leaflet

文部科学省 私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業  
『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』

SEPTEMBER  
2012  
VOL.085

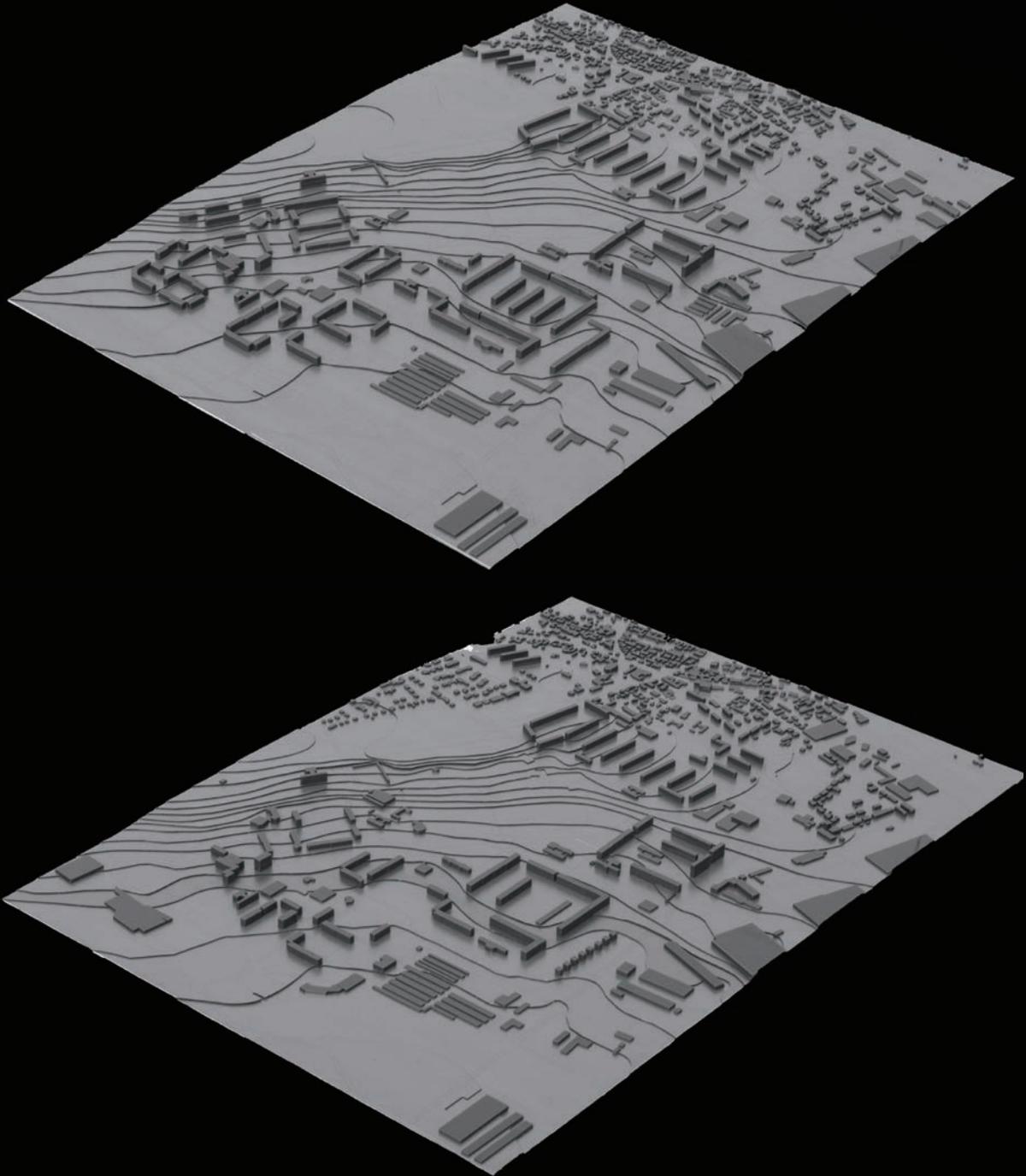


図 1. 上段：ライネフェルデ地区（従前：1992 年頃） 下段：ライネフェルデ地区（従後：2011 年）

## 空間比較模型の制作

海外の団地再生では、再生事業の前と後で空間を大きく改変している事例が多く見られる。かつての大規模で画一的な住棟で作られていた団地空間を、住棟を撤去し、新たな街路を導入し、小規模で多様な住棟への建替える例が見られる。この再生事業による「団地空間」の変化を端的に表す物として団地全体

の模型を作成した。様々な団地を同一の縮尺の模型とすることで、空間の特徴と変化を容易に把握できるようになった。

本稿では、1/2000 の縮尺で制作したドイツ・ライネフェルデの南団地の再生事業前後の模型について、その空間変化について分析を行うものである。

## 1. ライネフェルデ南団地の特徴

ライネフェルデは、ドイツ中央部、旧東独の西端に位置するチューリングゲン州の小都市である。1961年、この地域に東ドイツ政府によって、ヨーロッパ最大のテキスタイル産業基地等が建設された。これを受け、当時、至るところで大規模なベッドタウンの建設を進めていた政府は、ライネフェルデにも大規模な住宅地を建設した

しかし、ベルリンの壁崩壊後に工業都市としての機能が衰退したため、多くの失業者を生み、1989年に人口16,500人であった同市は12年間に住民の1/3を失った。

そこでライネフェルデ南団地では南団地の都市構造の中心地区を核として整備をおこなった。生活動線を確保するための交通インフラの整備や、緑化軸と歩道・自転車道といった住環境整備と同時に、画一的な住棟及び配置による団地であったものを、既存の団地の骨格を残し「減築」手法も採用しつつ再生事業がおこ

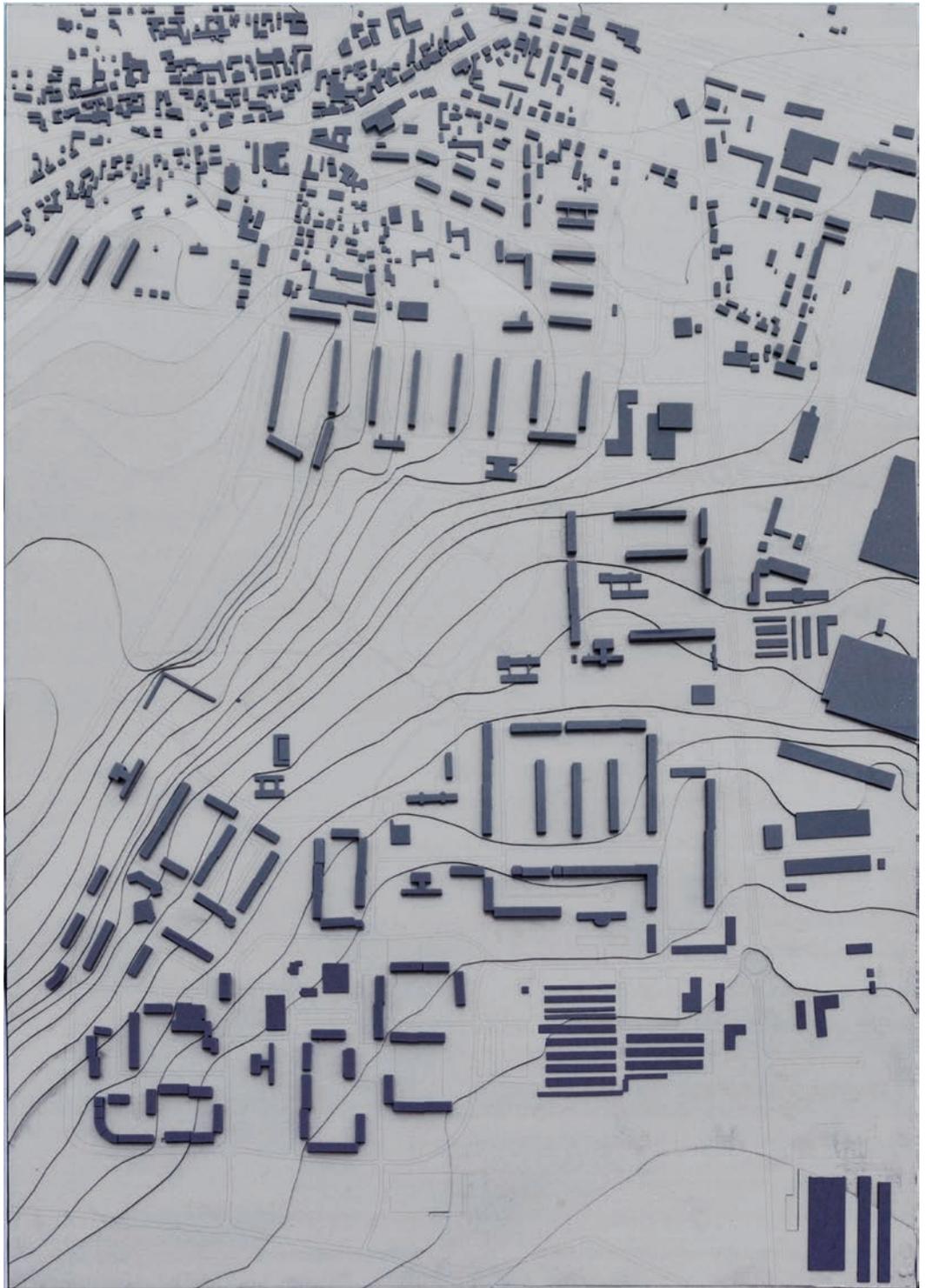


図2. ライネフェルデ地区全景（従前：1992年頃）

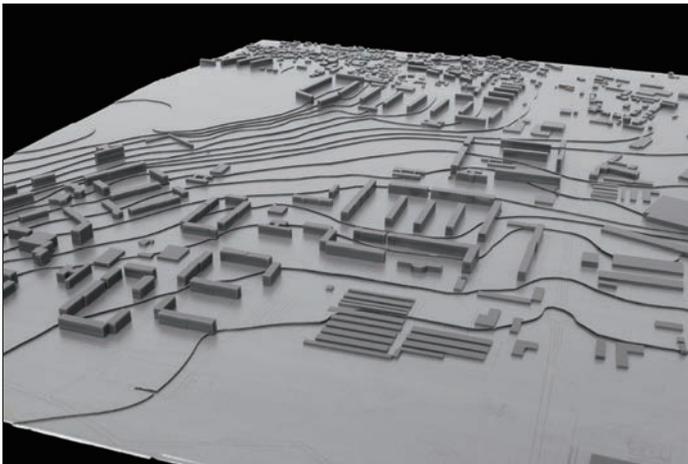


図4. 南東からのアングル（従前：1992年頃）

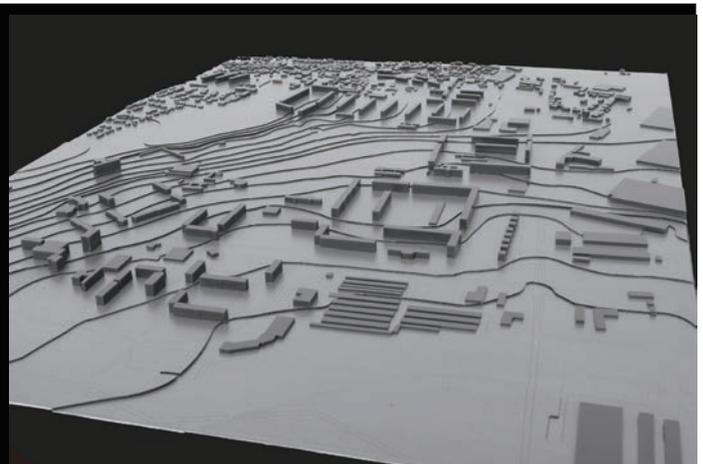


図5. 南東からのアングル（従後：2011年）

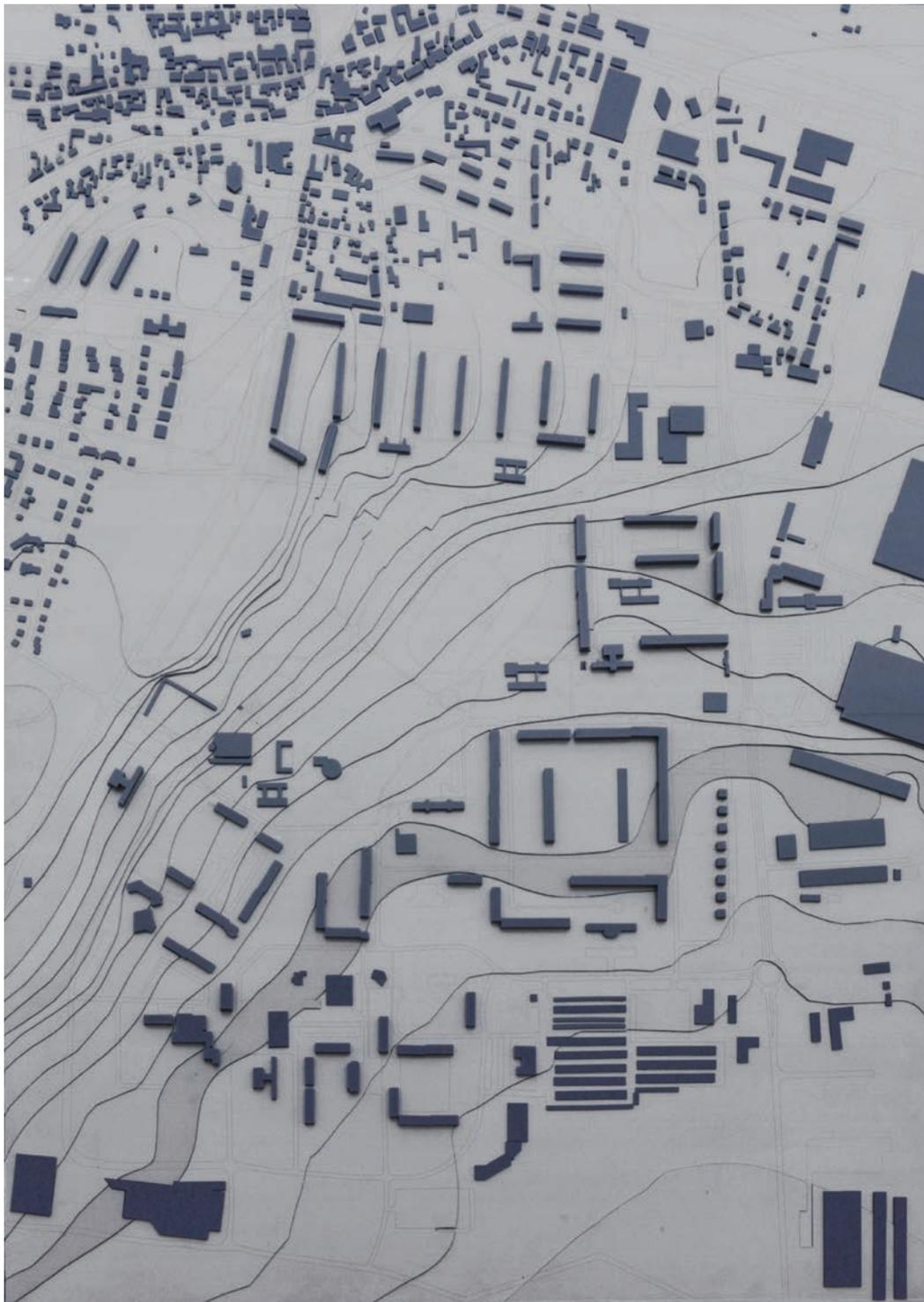


図 3. ライネフェルデ地区全景（従後：2011年）

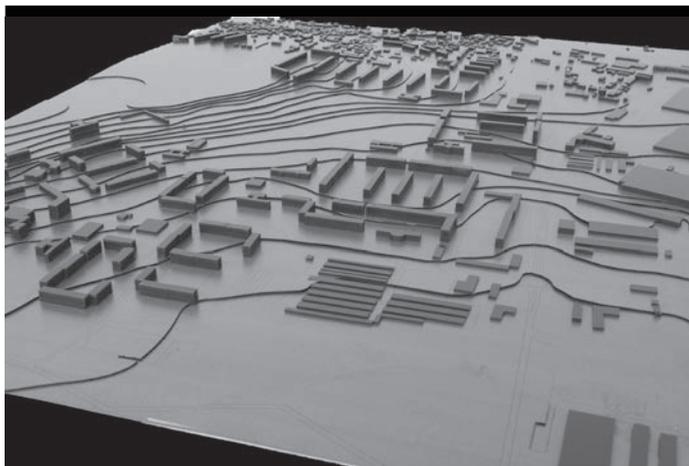


図 6. 南東からのアングル（従前：1992年頃）

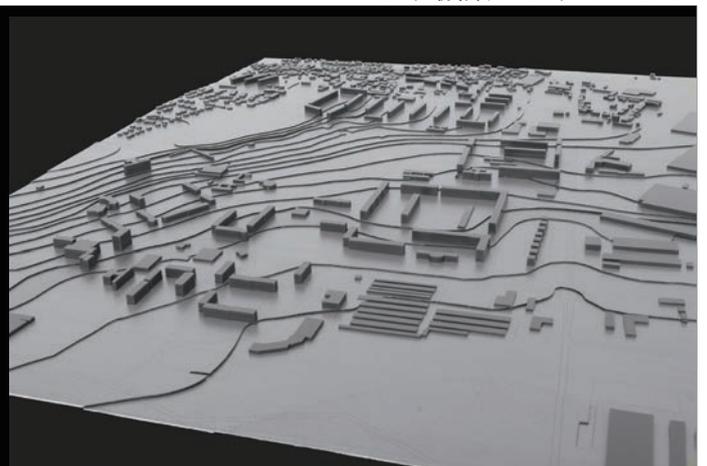


図 7. 南東からのアングル（従後：2011年）

なわれた事例である。

従前は 1992 年頃、従後は 2011 年時点として、A1 パネル 1 枚のサイズ、縮尺 1/2000 で制作した。

## 2. ライネフェルデ南団地の空間変化

### 2-1. 真上からの比較

ライネフェルデ南団地の再生事業による団地全体の空間変化についてみていく。真上から見た従前（図 2）と従後（図 3）を見比べると、従前は長大な住棟が建ち並ぶ様子が見て取れるが、従後は減築により住棟の全体もしくは一部が取り除かれ外に対して開かれた住棟配置になっていることが確認できる。また、団地中央部の平行配置の箇所では、住棟を取り除くことで、隣棟間隔が広がり、オープンスペースが確保されている様子がわかる。

### 2-2. 俯瞰からの比較

ほぼ同じアングルから撮影した写真をセットにして図 4～図 11 に示す。ライネフェルデ南団地の場合、従前・従後を比較して団地の骨格は大きく変わっていないものの、住棟の除去、減築により減築によりオープン

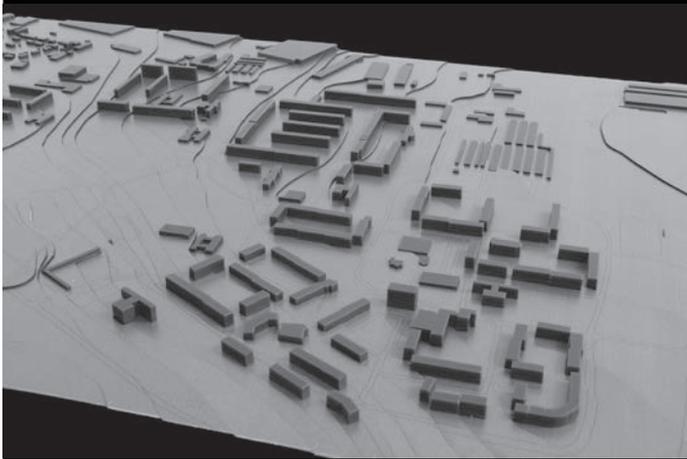


図 8. 南西からのアングル (従前：1992 年頃)

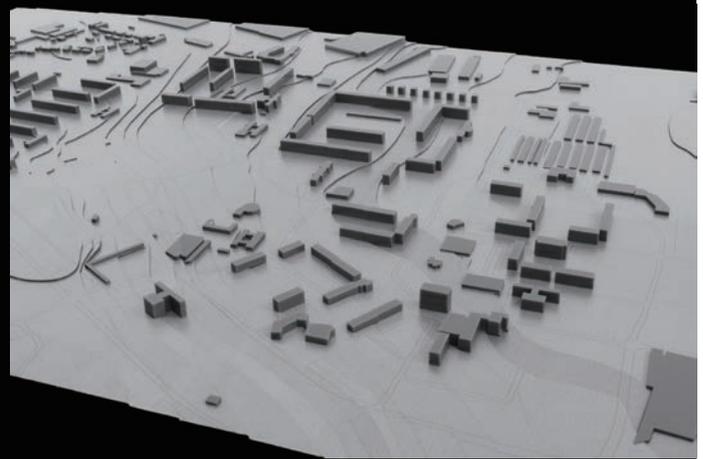


図 9. 南西からのアングル (従後：2011 年)

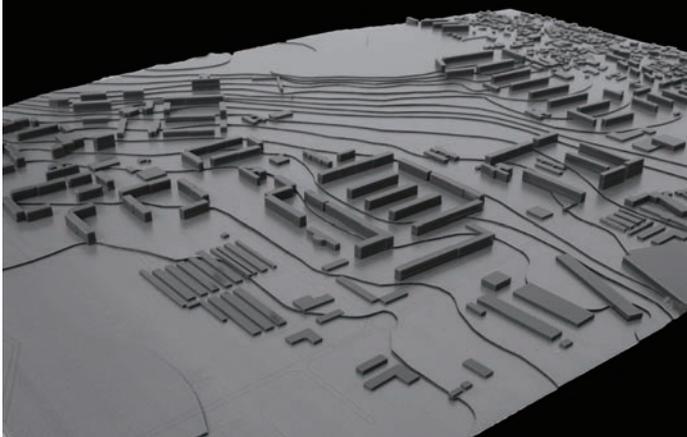


図 10. 南東からのアングル (従前：1992 年頃)

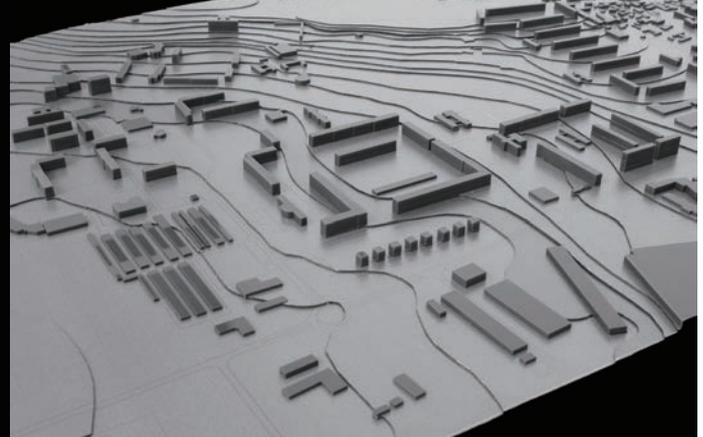


図 11. 南東からのアングル (従後：2011 年)



図 12. シュノーケルカメラの低いアングル (従前：1992 年頃)



図 13. シュノーケルカメラの低いアングル (従後：2011 年)

スペースが増加している様子が確認できる。また、「減築」により低層化している住棟や、1 スパンずつ撤去し小規模化する住棟も確認でき、さまざまな手法の「減築」が行われて

いる様子が伺える  
**2-3. 低アングルからの比較**  
 シュノーケルカメラを用いた低いアングルの写真を図 12、図 13 に示す。従前 (図 12) では長大で均質な

住棟が立ち並ぶ様子がわかるが、従後 (図 13) は様々な減築により、住棟の低層化、小規模化されている様子が見て取れる。

関連リーフレット：002、004、029

『再生事例に見る従前従後の空間比較模型 (ドイツ・ライネフェルデ地区 1/2000)』

執筆：倉知 徹 (関西大学 先端科学技術推進機構)  
 宮崎 篤徳 ( " " )  
 増田 和起 (関西大学大学院 博士後期課程)

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅“団地”の再編 (再生・更新) 手法に関する技術開発研究 (平成 23 年度～平成 27 年度)」によって作成された。

発行：2012 年 9 月

関西大学  
 先端科学技術推進機構 地域再生センター  
 〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3 丁目 3 番 35 号  
 先端科学技術推進機 4F 団地再編プロジェクト室  
 Tel : 06-6368-1111 (内線 : 6720)  
 URL : <http://ksdp.jimdo.com/>